

# 利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所  
 発行人 富田 孝  
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地  
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

## 〇年振り・〇年目を越えた新しい時代の教育とは・・・

利根教育事務所 管理主監 角田 義行

「やっと前のような行事が少しずつできるようになってきましたね。」

「教員も子どもたちもタブレット（ICT端末）に慣れてきましたね。」

令和4年度はこのような言葉が多く聞かれた1年ではなかったでしょうか。

コロナ禍も3年目となり、令和2年2月まで行っていた行事や活動等が、感染症対策を徹底する中で、少しずつできるようになってきたと思います。そこで、以前のことを知っている教職員が少なくなり苦勞しているという話や、制限があつて十分な活動をさせられないといった話を聞く中で、新たな工夫により児童生徒の主体性や協調性が伸びているという話を聞くこともできました。ICT端末の本格的な活用も2年目となり、子どもたちはすっかり扱いに慣れ教員も工夫した取組を行ってくれています。児童生徒の対応力の早さには目を見張るものがありますが、教職員は得手不得手があり少し差が広がっているのではないかと、学校間の差も生じているのではないかとという心配もしております。

このような中、県の教職員の多忙化解消に向けた協議会から、業務を「廃止・縮小・ICT化」の観点から見直し、それを来年度の教育課程や教育活動に反映していただくよう提言R5が示されました。カリキュラム・マネジメントの3つの側面からの対応も継続して必要になります。ICT端末の活用については、素晴らしい実践がある中で、本当に効果的な活用なのかといった疑問の声も聞かれています。これまでの授業に、ICT端末の特性や強みを生かした教育活動が求められていますが、どうしても活用が目的になってしまう場合もあったかと思えます。これまで重視してきた直接体験できる活動は残していく必要があります。すでに、学校で使う場面や活動を精選している学校もありますが、更に各教科等での効果的な活用方法をしっかりと考えてほしいと思います。県教委も、「各教科等の目標に迫るICTを活用した授業づくり」を推進していきます。

来る令和5年度は、何年振りとか何年目ということを超えた「新たな時代」を迎えると思います。「不易と流行」といった点から考えると、まず各学校の「教育目標」の達成に向けて児童生徒や地域の実態から、何を大事にしてきたのか、何に重点を置くのか再確認が必要です。また、時代の流れという点では、学習指導要領に新たに設けられた「前文」や、令和3年1月に出された中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」及びその参考資料を改めて読み直す必要があります。さらに、新型コロナウイルス感染症の「5類への移行」に伴う新たな対応や、教職員の研修記録の作成とその対応や、部活動の地域への移行を含めた地域との連携・協働の推進と、より多くの対応が迫られることとなります。

新たな時代に向け、各学校の教職員が一丸となり、児童生徒の「よさ」や「可能性」を引き出す「新たな学校づくり」を目指してほしいと思います。

### 学校教育係 ICT 活用促進プロジェクト実践推進校（片品中学校）の取組

各学校で「いつ、どこで、どのように」を合い言葉に、ICTの特性や強みを生かした効果的な活用が図られています。今年度、利根教育事務所管内では、ICT活用促進プロジェクト実践推進校として、片品中学校、川場中学校、古馬牧小学校、沼田小学校の4校に実践していただきました。

片品中学校では、1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、ICTを活用した「家庭と学校の学びを効果的につなげた授業の在り方／予習型学習」に取り組みましたので、その概要を紹介します。ICT 端末を活用し授業と家庭学習とをつなぐことを意識して単元を構想し、学力向上を図りました。

# 「家庭と学校の学びを効果的につなげた授業の在り方／予習型学習」



校長

ICT 活用促進プロジェクト実践推進校の取組をチャンスと考え、ICT の効果的な活用を模索してきました。生徒の学力向上を図るために、家庭と学校の学びを効果的につなげた授業の在り方について研究しました。

予習型学習とは…

生徒が家庭で学習内容を予習してから授業に臨み、授業では、予習内容に基づいて演習問題を解いたり、議論を行ったりする学習方法。



生徒

「授業中にもう少し話し合いをしたかったな。」  
「前もって自分で勉強しておいた方がいいのかなあ。」



先生

「授業時間のマネジメントが難しい…」  
「もっとじっくり考える時間や話し合いの時間を確保したいなあ。」

## 社会科の実践（公民分野）

### 学習支援ソフトを活用した家庭学習

- ・本時の学習内容を動画教材で視聴し、課題に対する自分なりの考え（解決策）をもつ。
- ・自分の考えをクラウド上の提出箱に提出する。

### 本時のめあてを設定する

- ・家庭で得た本時の追究活動に必要な知識とねらいに迫るための視点（対立と合意、効率と公正）を確認する。

### 個人の考えを基に、グループで交流し、全体で共有する

- ・提出しておいた解決策を持ち寄り、視点に沿ってグループで話し合い、解決策を考える。
- ・解決策を考える場面で気付いたことをグループで話し合い、考えを深める。

### 話し合いを通して深めたことを確認する問題に取り組む

- ・他の事例に取り組み、知識の定着を図るとともに、学習のまとめをする。

📌 学びを深めるための時間が充実する

家庭

導入

展開

まとめ

## 外国語科の実践

### 学習支援ソフトを活用した家庭学習

- ・動画教材を視聴し、本時の新出言語材料を用いた英文の意味や使い方を事前に学習しておく。

### 本時のめあてを設定する

- ・単元のつかむ過程で取り組んだ試しの活動で表現できなかった内容を、予習内容を用いて表現できないか、考える。

### 表現を再構成する

- ・予習で得た知識を活用しながら、自分の考えを表現する。
- ・友達のよい表現を学び、自分の英作文に取り入れる。
- ・共同作業シートを用いて、英作文を修正したり、よりよいものにしたりしながら、表現方法を身に付ける。
- ・お互いの英作文を読み合い、アドバイスしたり感想を伝えたりする。

📌 言語活動の量と質が高まる

### よい例を全体で共有し、フィードバックする

- ・内容面や言語面のよい例を全体で取り上げて共有し、学習のまとめをする。



【授業者】

- ・生徒が、家庭学習で得た知識を基に、自分の考えをもって授業に取り組めるので、意見を交流した上で、考えを深めさせる場面を設定できた。
- ・教師の役割が変わった。考えを深めさせる発問を端的に行い、生徒の活動を促すファシリテーター的な立場になった。

【授業者】

- ・家庭学習で習得した知識を授業の中で使いながら、修正したり、既習事項を復習したりしながら、正確に身に付けさせることができた。
- ・活動時間が増えた分、生徒の気付きを大切にしながら、よりよい表現ができるようにすることができる。



動画教材により知識や技能を習得し、それを基に自分の考えをもって授業に臨めるので、授業中は、考えを深めさせたい場面に時間をかけ、考えを深化させたり、終末の振り返りを充実させたりすることができました。初めは、生徒がきちんと家庭学習に取り組めるか心配でしたが、授業につながることが自覚でき、家庭学習で分からなかったところは次の授業の中で確認して理解が深まることが実感できると、しっかり取り組むようになりました。



研修主任

片品中学校では、動画教材の活用によって上記のような成果がありましたが、動画教材がなければ取り組めない訳ではありません。例えば国語では「物語文や説明文の初発の感想を家庭学習でクラウド上に提出し、授業では単元の課題設定から始める」、算数・数学では「個別の考えをもつ学習を家庭で行い、授業は集団解決の学習から始める」といったこともできると思います。各学校でも、「家庭と学校の学びを効果的につなげた授業の在り方」について考えてみてください。



群馬県 ICT 活用教育サポートサイト  
→ スタディサプリの活用  
片品中の実践事例が掲載されています